

一般行政報告

平成 26 年第 6 回定例会（12 月）

《 目次 》

- 1 平成 26 年度稚内・コルサコフ航路の実績と「日ロ定期航路存続対策連絡会議」の設置について
- 2 水道部所管風車の羽根落下事故について
- 3 平成 26 年度上期観光入込客数の状況について
- 4 稚内大谷高等学校の移転について
- 5 第 26 回住生活月間功労者表彰の受賞について

平成 26 年第 6 回稚内市議会定例会の開催にあたり、5 項目につきまして、一般行政報告をいたします。

- ◎ 1 点目は、平成 26 年度の稚内・コルサコフ航路の実績と「日ロ定期航路存続対策連絡会議」の設置についてです。

本年度の稚内・コルサコフ航路は、6 月 2 日から 9 月 24 日までの期間で、28 往復 56 便の運航計画でありましたが、台風 11 号に伴う低気圧の影響により 1 往復が欠航し、結果的には 27 往復 54 便が運航となったところです。

旅客に関しては、日本人 1,541 人、ロシア人 2,761 人、その他外国人 136 人の合計 4,438 人となり、対前年比で 710 人の増となりました。

一便あたりの乗客数は 82.2 人で、これは平成 11 年に現在の運航体制になって以降、最大の数値となりました。

一方、貨物に関しては、906 トンで、昨年 から 248 トンの減少となりました。

また、今年は、カーフェリーとしての利用も増え、特に、近年、オフロードのオートバイ愛好者の間では、サハリンの注目度が高まっていることから、オートバイや自転車などを積み込んで旅行をするケースが、延べ 135 件あり、次年度のさらなる増加に期待を高めていたところです。

しかし、ご承知のとおり、9 月 8 日の新聞報道で、定期フェリーの運航会社が平成 27 年度を最後に、稚内・コルサコフ航路からの撤退方針を発表したことから、事の重大性に鑑み、10 月 8 日、副市長を中心とした、関係部署による「日ロ定期航路存続対策連絡会議」を設置いたしました。

現在、航路の存続実現のための戦略を含め、関係機関や団体等と連携を深めながら、一地方自治体の枠を超えた、要請活動の展開に全力を挙げているところです。

このたびの本議会の議決につきましては、大変心強く、その趣旨をしっかりと受け止めなければと、思いを新たにしているところです。

すでに北海道知事や道内選出代議員などにも要請を行っているところですが、多くの関係者に対し、本航路への理解を深めていただき、航路存続を実現させるため、今後も全力を傾注いたします。

- ◎ 2 点目は、「水道部所管風車の羽根落下事故について」です。

先月 3 日、台風並みに発達した低気圧の影響で、宗谷岬で瞬間最大風速 33.4m を観測する強風により、水道部風力発電所 1 号機の 1

枚のブレードが脱落し、55メートル先に落下する事故が発生いたしました。

この事故により、隣接する稚内メガソーラー発電所から幌延変電所への3万3千ボルトの送電線が切断され、宗谷ふれあい公園などへの送電が停止いたしました。

市としては、この事故を受け、隣接する水道部所管の2基と稚内公園にある、同メーカーの風車の稼働をただちに止めたところです。

事故翌日には、経済産業省 北海道産業保安監督部が現地確認を行い、今月2日までに事故に関する中間報告を行うよう指示があったところです。

また、事故発生後の先月8日・9日には、製造メーカーである「ベスタス社」による事故確認も行われました。

13日に、事故原因の究明のため、落下したブレードの搬出を終え、切断した送電線につきましては、翌14日に仮復旧し、送電を再開しています。

今回の事故については、人身事故にならなかったことは、まさに不幸中の幸いでありましたが、市としては、この事故を重く受け止め、先月22日に、前日本風力エネルギー学会会長の勝呂幸男氏ほか4名で構成する「稚内市水道部風力発電施設事故調査委員会」を設置し、徹底した事故原因の究明をお願いしたところです。

あらためて、再生可能エネルギーの導入拡大に向けた、今後の風力発電の推進にも影響を与えかねない、今回の事故については、事故原因の究明はもとより、再発の防止に向け

た関係者のご努力をお願いするところです。

◎ 3点目は、「平成26年度上期観光入込客数の状況について」です。

本年4月から9月における上期の観光入込客数は、総数35万1,600人と、誠に残念ですが、対前年同期比で、19,400人、5.2%の減となりました。

この要因としては、4月からの消費税率の引き上げによる旅行控えや、貸切バス料金制度の改正によるツアー料金への影響のほか、観光最盛期のガソリン単価の高騰、台風・大雨による自然災害の発生などに影響されたものと推測していますが、特に道内旅行者の減少が特徴的でした。

そうした状況の中、航空機の利用者については、羽田便の機材大型化と就航期間の延長、千歳便のジェット機導入に併せた集客エリアの拡大、FDAチャーター便の就航地拡大などにより、平成23年の東日本大震災の影響や、昨年からの関空・中部便の休止に伴う減少分をカバーした実積を残しており、地域を上げた取り組みが功を奏したものと考えています。

しかし、JRは、8月から特急サロベツの運行再開はあったものの、それまでの減少分を補いきれず、対前年比で約9千人が減少し、これらの影響もあって、離島フェリーは約3万7,000人の減少となりました。

全体的な観光動向は以上のとおりですが、外国人の宿泊人数を見ると、約6,200名で15.5%の増、宿泊数は、約8,500泊で24.6%の増となっており、いずれも大きな伸びを示しています。

特に、その約5割が台湾からの観光客で占められており、この台湾観光客のさらなる誘致のため、先月19・20日に、稚内 外国人観光客 誘致受入実行委員会と礼文島観光協会が行った「台湾プロモーション」に、私も同行いたしました。

現地では、道内空港に就航する航空会社、旅行会社等の訪問や、関係者への説明会を開催したほか、台湾外交部などを表敬し、稚内地区日台親善協会の設立報告を含め、当地域への継続した送客について要請を行い、いずれも来季に向けて好感触を得たところです。

下期に入り、11月からは、稚内冬季観光振興実行委員会を中心に、官民が連携した冬季観光振興の取組みも始まっており、平成26年度全体の観光入込数の底上げに期待をしているところです。

また、既に平成27年度の上期対策も併行して進めており、先月から、全国の旅行会社の企画担当者を招き、本市をはじめ、周辺自治体と連携して、この地域の魅力PRに取り組んでいますし、また、この取組みが道内旅行者の掘り起こしにもつながることを期待しています。

さらに今後は、新千歳空港や旭川空港など、道内の他空港からの広域的な誘客対策の強化に加え、外国人観光客、特に、台湾や、他の東南アジア圏からの誘客を視野に入れた対策を、より効果的に展開し、本市への観光入込客数の増加に努めてまいります。

◎ 4点目は、「稚内大谷高等学校の移転について」です。

稚内大谷高等学校は、今年の夏休み明けとなる8月22日、旧北海道稚内商工高等学校跡に校舎を移転し、11月7日には新校舎において、校舎移転の記念式典を行いました。

商工高校廃校後の校舎の跡利用について、周辺地域や教育関係者からの意見・要望等も踏まえ、本市の将来にわたるまちづくりや、防災、生涯学習など総合的な施設利用を念頭に、多角的な視点から検討を行ってきたことは、これまでもご報告してきたところです。

その中で、大谷高校から、教育環境の整備を図り、地域に貢献する人材の育成を一層推進するため、旧商工高校校舎に、移転したい旨の要請があり、本来の学校施設としての再活用が最も望ましいとの判断から、関係機関と協議を進め、議会のご理解もいただき、旧商工高校の土地、建物一式を市が取得し、その一部を大谷高校に無償貸与いたしました。

高校再編による、旧商工高校の廃止が、平成20年9月に決定されてから6年、市議会をはじめ、北海道や北海道教育委員会、あるいは地域の町内会など、大変多くの皆様に支えられながら今日を迎えることができました。

改めて、昨年、開校50年を迎えた大谷高校の、新たな歴史のページが開かれたことを、市民の皆様と共に、心から慶びあいたいと考えています。

また、大谷高校には、宗谷管内唯一の私立高校として、今後も、同校の特色を活かした教育を実践するとともに、地域に恩返しができる学校であり続けていただきたいと、そのように思っています。

◎ 5点目は、「第26回 住生活月間 功労者表彰の受賞について」です。

国土交通省は、毎年10月を「住生活月間」と定め、ゆとりある住居環境の実現、建物の質の向上などに対し、優れた活動や顕著な功績をあげた、個人または団体に対して、表彰を行っています。

今年度の、住生活月間 功労者表彰において、本市が平成15年度から24年度で施工した「市営宝来団地建替え事業」が、「住宅局長表彰」を受賞いたしました。

受賞の要因としては、北海道内で初めて、共用廊下の照明などに自然エネルギーを活用したことや、宝来地区活動拠点センターの整備による、新たなコミュニティ環境の構築など、地域再生やまちなか居住の推進に寄与していること、稚内珪藻土をはじめとした地場産材の積極的活用による、地域経済活性化への貢献などが評価されたものです。

市営宝来団地については、昨年度の「北の地域住宅賞における北海道地域 住宅協議会長賞」に続き、二度目の受賞となります。

表彰式は、10月11日に広島市において、高円宮妃殿下のご臨席のもと行われ、本市からは副市長が出席いたしました。

この表彰を糧に、今後とも、地域の活性化のため、様々な観点から、公共施設の整備に努めなければと、気持ちを新たにしているところです。

以上、5項目についてご報告申し上げ、私の一般行政報告とさせていただきます。

ありがとうございました。